

医療経営者のための経営情報誌

ハートフル・メディカル旬報

岡税務労務会計事務所

TEL 092-851-3689

FAX 092-851-7403

医療経営者のための経営学

理論と技術そして態度の三角形が大切 日野原 重明（聖路加国際病院名誉院長）

1. 経営者は、従業員に明るさをもたらす存在でないといけない。「社長が来たぞ」って、雰囲気がかわばるようでは、社員は力を発揮できない。看護師によく話すことですが、患者に語り掛ける時は「A」の音程で話すのがいい。「ラ」の音ですね。オーケストラもチューニングは「A」で合わせる。コミュニケーションが いい音なのです。
2. ところが、気負っていると「C」、つまり「ド」の音になる。低いんです。話し掛けられた方はいきなり文句を言われそうな気分になる。夫婦でも帰って女房に「お帰り」って低い声で言われるとうんざりするでしょう。明るく話せば、旦那も変わる。声のトーンはとっても大切なのです。
3. ビジネスは、すべてコミュニケーションです。コミュニケーションによって理解と信頼が生まれて関係が進展する。より良いコミュニケーションのためには、「理論」と「技術」、そして「態度」が頂点となる三角形が大切です。上辺の理論と技術は誰でも同じように学べるけど、底辺を支える態度は人それぞれ違いが出る。それが「タッチ」なのです。
4. 医療を手当てと言います。医学はサイエンスに基づいたアートだという言葉もあります。絶妙なタッチを演出するのは、アートなのです。ちょっとしたジョークやリラックスできる話題を交えれば、コミュニケーションの「タッチ」を意識することが大事なのです。
(参考:「日経ベンチャー」2005年6月号)

ワンポイント経営アドバイス

一般病棟入院基本料の施設基準届出病院が減少

1. 一般病棟入院基本料の施設基準を届出している病院数は、2000年の6382が2004年は5903と5年間で479病院も減少した。診療報酬上の平均在院日数短縮政策や、医療法改正による病床区分届出の2003年8月末締め切りなど政策的な誘導の結果である。
2. 病院としては、地域の一般病床、いわゆる急性期病院として残りたいのだが、自院に慢性疾患的な高齢者の入院患者が多く、医師や看護師数も多くないため、一般病床としての運営をあきらめざるを得ない病院が多くなっている。
3. 病床区分の届出は「とりあえず一般病床」としたが、諦めざるを得ない病院が多くなり、そのため(2)療養病棟入院基本料の届出病院が2001年3257から2004年3715へと458病院も増加している。
(参考:「医療経営情報」2005年5月増刊号)

製薬業界の動向

医薬品卸業界の今後

1. 医薬品卸と調剤薬局の前期決算がほぼ出そろった。医薬品卸主要各社は全社で営業減益。調剤薬局の主要各社は、調剤部門は好調で、医薬品卸の「暗」と調剤薬局の「明」が目立つ結果となった。
2. 医薬品卸では業界再編が進み、医薬品卸の4大グループ(アルフレッサホールディングス、メディセオホールディングス、東邦薬品、スズケン)で業界シェア約70%を占めるに至った。皮肉にも、この寡占化した業界で逆に大手卸間の価格競争が強まり、加えて、病院の共同購入の促進と調剤薬局のチェーン化による価格交渉力の上昇等の要因も重なり、医薬品卸の粗利益が調剤薬局や病院に移り、明暗につながった。
3. しかし、当業界が中期的に抱える問題は少なくない。第1に、大手卸間で取扱商品や販路で独自色を出すのは困難であり、医薬品卸売事業の成長に限界があることである。第2に、規制緩和によりコンビニ、スーパーで購入可能な医薬品の増加が懸念されている。
(参考:「野村週報」2005年6月27日号)

古典に学ぶ

上の者に「道」がなければ

「かみ上たるもの まこと誠に知を好みて道なければ、則ち天下大いに乱れん」

(訳) 上に立つ者が巧智にばかり頼って無為自然の道に反したことをすれば、人々はいよいよ利己的になって、天下は收拾のつかぬ混乱に陥るであろう。
(参考:守屋洋「老子・荘子」): P H P 研究所